Ｎｏ．３５９【２０１９年６月７日配信】
フランシスコ・ザビエルと青森市の関わり（担当：村上）

こんにちは。嘱託員の村上です。

今年はフランシスコ･ザビエルが日本に初めてキリスト教を伝えてから 470 年の節目の年です。ザビエルは天文 18 年（1549）から 2 年ほど日本に滞在し、鹿児島、長崎、山口などでキリスト教を広めました。ザビエルが青森市を訪れたことはありませんが、調べてみると、青森市との関わりが見つかりましたのでご紹介します。

皆さんはフランシスコ・ザビエルの「聖腕」というものをご存じですか？

ザビエルは日本を離れたあと中国での布教を目指しますが､その途中で病気のため亡くなってしまいました。死後、ザビエルの遺体はインドのゴアへ送られ、現在もゴアのボン・ジェズ教会に安置されています。ただし、右腕はローマへ送られ、ローマのジェズ教会にあります。この右腕が「聖腕」と呼ばれるものです。

さて、ザビエルが日本を訪れてから 400 年の節目の年であった昭和 24 年（1949）、日本ではザビエルの功績をたたえる「ザビエル渡来 400 年祭」という式典が行われました。この式典に合わせて世界各国の聖職者による国際巡礼団と「聖腕」が来日し、各地を巡回しています。

式典は 5 月 29 日から 6 月 12 日まで行われ、ザビエルが布教活動で訪れた場所などを国際巡礼団と「聖腕」が巡りました。式典終了後は上智大学の司祭が「聖腕」を奉持して各地を巡ることになり、青森市のカトリック教会でも 6 月 30 日に「聖腕」を迎えて盛大な野外ミサを行うことになりました。

明の星高校の講堂（左）と校舎
（昭和 20 年代『復興した　新しい青森』より）

「聖腕」は 6 月 30 日の朝、青森市に到着し、午前 9 時から明の星高校の校庭でミサが行われました。ミサの会場には生徒と信者合わせて 1500 人が集まり、ザビエルに関する講話を聞き、平和を祈りました。このミサには横山實市長も来賓として出席したそうです。

ミサ当日の『東奥日報』には「ザビエルの聖腕を迎う」という社説が掲載されており、キリスト教徒だけでなく一般の県民にとっても「何らかの魂の浄化、現実の反省の機会となり得るならば幸」と述べられています。つまり､「聖腕」を迎えてのミサは宗教的な祭礼というだけでなく、多くの人々の関心を集めるイベントになっていたのです。

※今回の内容は『からしだね』（1998 年　ケベック会日本宣教 50 年記念事業委員会）､『東奥日報』昭和 24 年 6 月 18 日付、同月 30 日付、7 月 1 日付などを参考にしました。